

「人の役に立ちたい」という思いが原点 幅広い視野と活動で挑戦を続ける介護福祉士

キャリアアップ

井上勝也さん / 35歳

TOP ケア訪問介護事業所
サービス提供責任者、介護福祉士

キャリア

18歳	高校卒業後、東京の介護施設で勤務
25歳頃	退職し、飲食店やコールセンター等で勤務
26歳頃	再び介護の仕事に戻り、派遣社員として様々な施設で勤務
30歳頃	現職で正社員として働きだす

ある日の一日



POINT

- 「人の役に立ちたい」と思ったとき、介護の仕事が思い浮かんだ
- つらい時期も利用者さんの言葉に支えられて仕事が続けられた
- 利用者さんも家族もスタッフも、みんな笑顔になれる介護がしたい

福祉の仕事をする前は何をしていた？

— 大好きな祖母との別れがきっかけで、
介護を志す

介護の仕事をしたと考え出したきっかけは、祖母です。とても仲が良く、可愛がってくれていたんですが、自分が中学2年生の頃に乳がんで亡くなりました。お葬式の時に、「なんにも取り柄のない自分だけ、誰かの役に立ちたいな。」と漠然と思いました。その後進学した高校で、毎週土曜日に自分の好きな分野を選択できるクラブのようなものがあって、その中に「ホームヘルパー3級塾」というものがあったので、そのクラブに入っているいろいろと勉強したりしていました。本当は専門学校に進学したかったんですが、金銭面などで家族から反対されてしまい、高校卒業後から介護の仕事に就くことに決めて、東京で就職しました。

— 利用者さんの言葉が支えてくれた、
介護の仕事

働き始めた頃は、社会人としても介護スタッフとしても全く経験のないところからのスタートだったので、かなり大変でした。失敗もして怒られることもありましたが、自分は、元々負けず嫌いな性格でもあるので、こんなことで諦めないぞと思って頑張っていましたね。でも、そんなことの繰り返しで、かなり落ち込んでいた時期があったんです。ある日、いつものように利用者さんの部屋にお茶を持って行ったとき、特に何を言ったわけでもないのですが、「続けていたら、幸せがくるよ」と言ってくださったんです。突然のことでびっくりして、利用者さんの部屋を出た後、涙が止まりませんでした。今でも、この言葉は自分を支えています。

❗ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 一度介護を離れたからこそ分かる、介護のおもしろさ



数年たった頃、だんだん「自分のしたいこととズレている気がする」と思うようになりました。日々の介護がルーティンのように思えてしまい、少し介護から離れてみようと思うようになりました。それから、飲食店やコールセンターなどで働きながら、いろんな業種の勉強会に参加しました。1年近くたった頃に、「やっぱり人の役にたつ仕事がしたい」と思うようになり、介護の仕事に復帰しました。派遣社員だったので、いろんな事業所や施設に出入りするのですが、時間の流れやコミュニケーションの取り方、施設の中の匂いとか、かなり違いがあるんだなと気づきました。そういった経験を積んだのちに、訪問介護なら自分もレベルアップできるかも、という気持ちになり、今の職場で正式に社員となりました。

介護は考えながらやっていくものだと思います。利用者さんの言葉や態度、反応の意味を考えるのは、ある意味、謎解きみたいです。

❗ 仕事以外はどんな生活をしている？

— レベルアップのためにさらなる資格取得を目指す

最近、ケアマネジャーの資格取得のための勉強をしています。レベルアップのため、現場で生きる知識を学ぶことが大切かなと思い、ケアマネジャー以外にも、民間の検定や資格にも挑戦しています。それ以外だと、週に1回スカッシュに行っています。体を動かしたいなと思って始めたのですが、ボールがどこにとんでいくか分からないので、体力以外に予測する力を鍛えられているなと思います。

今後の目標は、介護を楽しくしたいと思っています。利用者も家族も働く人も、笑顔でいれるような環境をつくりたいです。そのためにはまず自分たちが楽しむことも大事だと思って、認知症カフェをはじめたり、仲間たちと一緒にショートフィルムを撮って、なかまある（認知症の人たちが仲間と一緒に、自分らしい暮らしを続けていくためのウェブメディア）主催の認知症フレンドリー社会を目指すショートフィルムコンテストに参加したりしています。



取材を
終えて

介護の仕事の良いところは、「直接人の役に立てること」と話される井上さん。業務以外でも、様々なかたちでケアの質を高めたり、介護の魅力を発信するための挑戦をされる姿が印象的でした。